



**G I G Aスクール構想とは**

G I G Aスクール構想とは、特別な支援を必要とする子どもを含め、多様な子どもたち一人一人の資質・能力が、一層確実に育成できるような教育ICT環境を整備しようとするものです。

具体的には、児童生徒一人一人にタブレット端末を配備し、併せて校内に高速大容量の通信ネットワーク(W i - F i )環境を整備します。また、デジタル教科書やデジタル教材の活用とともに、遠隔教育・オンライン教育などの推進を図ります。

**G I G Aスクール構想とは**

**学びの深化と転換**

G I G Aスクール構想では、子どもや学校の実態に応じ、各教科などの特質や学習過程を踏まえて、教材・教具や学習ツールの一つとしてICTを積極的に活用し、新学習指導要領に掲げる資質・能力をバランスよく育成します。

また、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行います。

■「一人一台端末」の効果

- 一斉学習では、端末を通じて子ども一人一人の反応が把握できるため、双方向でよりきめ細かな授業展開が可能になります。
- 個別学習では、同時にそれぞれの内容を学習でき、学習履歴が自動的に記録されるため、個々の教育ニーズや理解度に応じた個別学習や個に応じた指導が可能になります。
- 協働学習では、各自が情報を収集し、独自の視点で編集などを行うため、全ての子どもが自発的に取り組み、多様な意見にも即時に触れることが可能になります。



**G I G A (ギガ) スクール構想の実現について**

▶ 問い合わせ先=学校教育課(☎内線290)

※G I G A (ギガ) とは= Global & Innovation Gateway for All の略。全員がグローバル(国際舞台)とイノベーション(革新的創造)の扉を開けることのできる学校にしていこうという意味。

**G I G Aスクール構想の背景**

私たちが取り巻く環境は、高齢化やグローバル化など社会的課題がますます複雑化し、現在の社会システムでは経済発展との両立が困難な状況にあります。

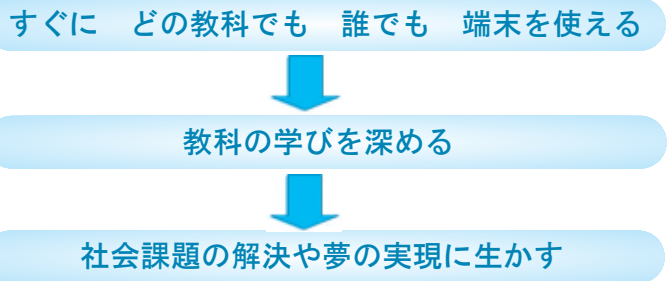
こうした中、人工知能(A I ) やロボットという社会のあり方に影響を及ぼす新たな技術が進展しており、国では「Society 5.0(超スマート社会)」としてこれらの先端技術を産業や社会生活に取り入れ、社会的課題の解決と経済発展の両立を目指しています。

教育の現場においても、この「Society 5.0」の活用が社会において、ICTを活用して豊かに生きる人材を育成することが求められています。

新型コロナウイルス感染症の発生による学校の臨時休業措置を受け、災害や感染症発生時においても、ICT(情報通信技術)の活用により、全ての子どもたちに学びを保障できる環境を早期に整備するため、全国の自治体ではG I G Aスクール構想の実現に向けた動きが加速しています。

本号では、G I G Aスクール構想とその実現に向けた市の取り組みを紹介いたします。

**ICTを活用した学びの変容**



**実現に向けた課題**

一人一台端末を効果的に活用するには、操作方法などのスキルの向上とともに、インターネットの安全利用や有害情報へ適切に対応するため、子どもたちへの情報モラル教育の徹底が重要です。

また、学校と家庭を結ぶオンラインでの学習については、端末の持ち帰りや家庭における通信環境の確保など、実施にあたり今後解決すべきことがあります。

**市の取り組み**

当市では、G I G Aスクール構想の実現に向けて、本年度、市内小中学校の児童生徒および教職員が使用するタブレット端末の購入および校内無線LANの整備を行います。

また、教育ICT環境の整備とともに、引き続き、今年度から始まっているプログラミング教育のほか、すでに整備している電子黒板や人型ロボット(ペッパー)を活用した学習が効果的に行われるよう、教員のICTスキル向上にも取り組めます。

**1人1台端末の活用による授業の例**

①外国語 海外の人と本物のコミュニケーション	②国語 スピーチの様子を録画し、振り返る
③算数 様々な表やグラフの作成、データの傾向を把握	④理科 各自が収集した写真や動画をクラスで共有

・ 学習活動の一層の充実  
・ 主体的、対話的で深い学び

これまでの教育の蓄積

ICT 1人1台端末の環境

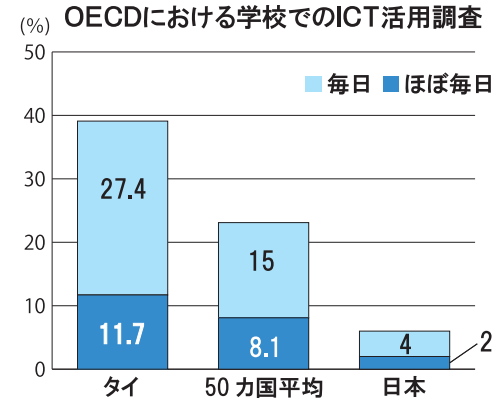
※ ICT = Information and Communication Technology の略。情報通信技術という意味。

**学校教育とICT**



わが国の学校におけるICTの活用は、OECD(経済協力開発機構)加盟国の中では遅れている状況にあります。教育用コンピュータの設置も十分ではなく、授業におけるデジタル機器の利用時間は、OECD加盟国50カ国中最も短く、最下位となっています。

また学校外では、多様な用途で利用しているものの、



チャットやゲームに偏っている傾向にあります。

令和3年度に、小中学校ともに移行する新学習指導要領では、情報活用能力が初めて「学習の基礎となる資質・能力」に位置づけられました。

今後は、教科と教科を関連付けながらその育成を図るとともに、ICT環境の整備と活用に係る学習活動の充実を推進する必要があります。